教育制度論
第5テーマ 公教育制度史概要2
公教育制度の系譜と義務教育原理の変遷

日付:

I 公教育と私教育(再掲)

- ・私教育
 - ・ 教育以外のすべての教育
 - ・典型的には、 教育(子育てなど)、 教育(塾、予備校、公開講座など)

- ・公教育
 - ・ の性質を持つ教育(的性格を持つ教育)
 - ・ などによって管理される教育

【参考】 非組織的教育・組織的教育・学校教育の比較(内容的には再掲)

	人類最初期の教育 (非組織的教育)	組織的教育	現在の学校教育 (一例として)
教育の集団		特定集団	特定集団、一斉教育
教育の時間・場所		特定の時間・場所	時間割・教室など
教育の方法		特定の方法	特定の方法*
教育の内容		特定の知識技術	学習指導要領など
教育の計画		特定の計画	指導計画など
教育の速さ・効率性		速さ・効率性の重視	要領、計画等の範囲

*1 人の教員が多数の児童生徒へ講義形式で行う、教科書やその他資料を用いて行う、黒板(スライド)を用いて行うなど。

問 以下の文章の正誤を答えよ。誤りの場合は理由も述べよ。

- ・家庭教育は私教育である。
- ・社会教育は私教育である。
- ・学校教育は公教育である。(日本の場合) (日本以外も含めた場合)
- ・家庭教育は非組織的教育である。
- ・社会教育は非組織的教育である。
- ・学校教育は組織的教育である。
- ・私教育は非組織的教育である。
- ・公教育は組織的教育である。
- ・公教育は常に学校教育の形態を取る。

Ⅲ 義務教育原理の変遷(概要)

(参考『要説 教育制度 新訂第三版』学術図書出版社、2011年)

1 義務教育の原理

・近世義務教育の原理

- ①命令を全国に浸透させる中央集権的教育行政
- ②国家に必要な官僚制、殖産興業、常備軍を確保するための学校体系
- ③支配イデオロギー(国定教義)の注入
- ④「国家に対する義務」……経費負担は保護者、地方等

・近代義務教育の原理

- ①私立学校設置の自由
- ②学校選択の自由(非義務教育)
- ③公教育の中立性
- ④公教育の無償制
- ⑤法律主義、地方分権主義

・現代義務教育の原理

・公による「」の積極的保障

- ・就学義務
- ・援助義務
- ・設置義務
- ・避止義務
- ・義務教育の無償
- ・就学奨励

2 義務教育の類型

- ・年齢主義……一定の に達すると義務教育が修了する。
- ・年数主義……一定の を経ると義務教育が修了する。
- ・課程主義……一定の を終わると義務教育が修了する。
- (・内容主義)……一定の教育内容を修得すると義務教育が修了する。

- ・教育義務…… を受ける(受けさせる)(する)ことを義務とする。
- ・就学義務……所定の学校に する(させる)ことを義務とする。
- (・通学義務)……所定の学校に する(させる)ことを義務とする。
- (・課程修了義務)……一定の教育課程を修了する(させる)ことを義務とする。

- ・義務の帰属……誰が、どこへ、何を(何に対して)負っているのか。